ＪＡ自己改革推進レポートについて

令和５年９月２６日
ＪＡ鳥取県中央会

１．ＪＡ自己改革実践状況

（１）ＪＡグループ鳥取の取り組み

①第１回ＪＡグループ鳥取「食パラダイス鳥取県みらい宣言」

ＪＡグループ鳥取は８月９日、鳥取市の鳥取県ＪＡ会館で第１回ＪＡグループ鳥取「食パラダイス鳥取県みらい宣言」を開いた。食料安全保障の重要性やＪＡグループが進める持続可能な農業生産・経営基盤の維持に向けた取り組みについてトップ広報した。

ケーブルテレビ局や新聞社など計８社から１３人が参加。ＪＡグループ鳥取を代表してＪＡ鳥取県中央会の栗原隆政会長が「県民に向けた情報発信を通じ、食料安全保障の理解情勢や国消国産運動の行動変容につなげたい」とあいさつした。

トップ広報では、栗原会長とＪＡ全農とっとりの尾崎博章県本部長が説明し、栗原会長は、食料・農業・農村基本法の見直しが進む中、再生産に配慮した適正な価格形成実現の重要性を訴えた。また、９月より農業労働力支援としてＪＡグループで導入する副業制度や１０月から始まる国消国産キャンペーンなどを情報発信した。尾崎本部長は鳥取すいかをはじめ、ブロッコリーなど青果物の販売実績を報告。鳥取すいかは過去最高の単価となったことや、８月２１日に出荷を迎えた県産梨「二十世紀」など、生育状況は前倒しで推移していることなどを報告した。

次回は１０月１３日に現地視察を含めたトップ広報を予定する。

②台風７号で被災した県内地域にＪＡグループの援農支援隊を派遣

ＪＡグループ鳥取は８月２１日から、ＪＡ鳥取いなばの要請に応じて台風７号で被災した県内地域にＪＡグループの援農支援隊を派遣し、復旧支援を行った。ＪＡ鳥取いなばの職員に加え中央会・連合会の職員、延べ３７人が鳥取市佐治町の梨園地の土砂の撤去や八頭町のＪＡ鳥取いなば広域果実選果場で県産梨「二十世紀」の出荷・調整作業を２７日まで支援した。

ＪＡ鳥取県中央会の栗原隆政会長は「困った時に助け合うのが協同組合活動。１日も早い復旧に向け、ＪＡグループとして積極的に支援の輪を広げたい」と話した。

③県産梨フェア「二十世紀」や県オリジナル品種「新甘泉」の魅力発信

株式会社食のみやこ鳥取が運営する地場産プラザ「わったいな」は、８月２６日と２７日、県産の梨フェアを開催した。２１日に出荷が始まった特産の県産梨「二十世紀」や県オリジナル品種「新甘泉」など、県産梨の魅力を発信し、消費拡大を進めた。

梨の食べ比べ試食や長さを競う梨の皮むき競争など、親子で楽しめるイベントを実施。試食会は両日とも１０時と１３時より、各４００人計１６００人に振る舞った。また、新たにオリジナル梨箱を作成し、進物販売を強化した。県産梨のオリジナル品種をクイズ形式で学べるイベントでは、正解者の中から抽選で梨５㌔箱をプレゼント。来場者にアンケートを実施し、梨認知度の向上につなげた。

（２）大山乳業農業協同組合の取り組み

令和４年度良質生乳出荷者表彰伝達式を開催

中国地区で年間を通じて良質な生乳出荷者を表彰する「良質生乳出荷者表彰伝達式」が８月２１日に開催され、表彰者は全員で２８名、そのうち大山乳業生産者１４名が「ホルスタイン部門」で受賞した。

昨年と比べ鳥取県の受賞者は３名減ではあったものの、３年連続で全体の半数以上を占めており、受賞者は、「今の厳しい酪農情勢の中で、飼料代や資材代等が高騰し、乳質を維持することは難しい課題だが、こうして１年間を通じて高い乳質を維持できたことは、スタッフ一同にとって大きな手応えとなっている。来年も引き続き、頑張っていきたい」と話した。

（３）鳥取県畜産農業協同組合の取り組み

京都生協、コープしが　組合員とのキャンプを美歎牧場で開催

鳥取県畜産農協は７月２９、３０日と８月５、６日に美歎牧場において生協組合員とのキャンプを開催した。このキャンプはＣＯ－ＯＰ牛乳産直交流協会（京都生協・コープしが・大山乳業農協・鳥取県畜産農協）の主催で毎年開催していたが、コロナ禍のため２０１９年に開催して以来４年ぶりの開催となった。キャンプの目的は、生協組合員が産直の牛乳や牛肉の生産地で生産者や役職員と交流し、酪農や畜産に

ついて理解を深めていただくことにある。７月開催は京都生協の組合員６２名、８月開催はコープしがの組合員５３名に参加いただき、猛暑の中ではあったが、当初の目的である交流と酪農・畜産を取り巻く現状について理解いただくことができた。

（４）ＪＡ全農とっとりの取り組み

①農機事業一体運営を開始

全農とっとりは７月３日、倉吉市で「農機事業一体運営出発式」を行った。

これは、農機事業における専門職員の不足や技術の継承、事業収支などの課題に対し、ＪＡ鳥取中央の子会社「ＪＡ中央サービス」と全農とっとりが一体となって取り組むものである。

これからも持続可能な体制による事業基盤の確立を目指し、組合員から「頼り」とされるよう農機事業の運営に取り組んでいく。

②大阪で県産梨「二十世紀」初販売セレモニー開催

全農とっとりは８月２２日、大阪市中央卸売市場本場にて県産梨「二十世紀」初販売セレモニーを開催した。

鳥取県からは、平井鳥取県知事をはじめ、生産者代表、ＪＡ関係者、わかとりメイツが出席。全農とっとりからは、上本運営委員会会長が出席し、「今年の二十世紀梨も糖度、大きさともに素晴らしい仕上がりとなった。ぜひ全国の消費者の皆様にご賞味していただきたい。」とＰＲした。マスコミも多数来場し、県産梨「二十世紀」の初販売を全国へ発信することができた。

③東京で県産梨「二十世紀」販売セレモニー開催

ＪＡ全農とっとりは８月２６日、東京都中央卸売市場本場にて県産梨「二十世紀」販売セレモニーを開催した。

セレモニーでは、亀井鳥取県副知事と全農とっとりの上本運営委員会会長が、市場関係者に向けて力強いメッセージを発信した。

また、４年ぶりに試食も振る舞い、最高の仕上がりとなった県産梨「二十世紀」を市場関係者に向けてアピールできた。セレモニー終了後には、市場内の仲卸店舗を表敬訪問し、県産梨「二十世紀」をＰＲした。

（５）ＪＡ鳥取信連の取り組み

ＪＡの農業融資にかかる人材育成支援について

ＪＡ鳥取信連は、ＪＡの農業融資にかかる人材育成について、農林中央金庫と連携し、研修会を開催している。

令和５年度は、昨年度に引続き農業融資実践力強化研修（第１クール：７月１９日・２０日　第２クール：９月１２日）を倉吉未来中心で開催し、第１・第２クール合わせて受講生として農業融資専任担当者を含めＪＡ職員２７名が参加した。

本研修は、金融仲介機能の発揮に向けて、ＪＡの農業融資を扱う担当者が農家や農業法人など担い手へ「出向く活動」を実践するうえで、担当者として必要となる業務知識や推進話法など実践的な業務スキルの習得が目的である。

受講生は３つのグループに分かれ、グループのリーダーを中心に、演題課題について、グループワークやロールプレイングを行い、積極的に意見交換を行い、理解を深めた。

今後も、農林中央金庫と連携し、研修会を開催することにより、ＪＡの農業融資にかかる人材育成を支援する。

（６）ＪＡ共済連鳥取の取り組み

「交通安全啓発用品」を鳥取県交通対策協議会へ贈呈

ＪＡ共済連鳥取は、秋の全国交通安全運動に先がけて９月４日、鳥取県庁において「ＳＡＦＥＴＹ　ドライブチェッカー（２台）」・「自転車用スポークリフレクター（５千個）」を鳥取県交通対策協議会（会長：平井鳥取県知事）へ贈呈した。

贈呈式では、ＪＡ共済連鳥取の清水運営委員会会長が「秋の全国交通安全運動にあわせて、交通事故未然防止に役立てていただきたい。」と挨拶した後、同協議会副会長の亀井鳥取県副知事へ目録の贈呈を行った。

贈呈した「ドライブチェッカー」は交通イベントでの活用や県警・市町村等へ貸し出し、「自転車用スポークリフレクター」は、夕暮れ時、夜間の事故防止の啓発として各市町村を通じて交通安全運動期間に地域住民へ配布される。

ＪＡ共済連鳥取では、平成２２年から交通事故撲滅を目指す活動の一環として、同協議会を通じて学生や高齢者等へ交通安全啓発用品を贈呈し、交通事故の未然防止に取り組んでいる。

以上